# 特集

## 第４回世界女性会議 … NGOフォーラムに参加して …

世界女性会議ＮＧＯフォーラムに参加させて頂き、自分の生き方を考え直す良い機会を与えて下さったことに感謝しております。

一つの地球の上に同じ人間でありながら、国が違い宗教が異なることにより、想像以上に多種多様の問題のあることを知りました。

開幕式でスパトラ・マスディット議長が演説の中で“あらゆる問題は女性問題である”と言われました。女性と貧困、教育、健康、暴力、戦争、経済、権力、意思決定、人権、メディア、環境、少女の問題など“あらゆる問題”は男女を問わず、すべての人々の問題であるはずです。しかしながら、弱者におしつけがちな現在の社会の在り方には、胸の痛む思いがします。

今回の北京会議のキーワードであり『北京宣言』にも、もりこまれている“エンパワーメント”は女性一人一人が、あらゆる場面で能力を養っていくことです。国によって、地域によって、個人によって、エンパワーメントの内容も変わってきますが、私は勇気をもって私達団員のキャッチフレーズである“みんなで幸せになろう”を目標に、男女共同参画社会に向けて役立つ地域活動を、していきたいと思っています。

（柴田　美子）

第４回世界女性会議に参加して痛感したことは、他国籍女性の力強さと豊かな日本社会において女性の地位が余りにも低いということだ。生活水準の高さでは世界第３位なのに、女性の社会参加度を見るとなんと第27位だ。私はこの結果にショックを受け、そしてこの会議に参加した５千人余りの日本人女性がこの現実をどう受け止めているのか疑問を感じた。確かに言葉の壁を感じつつも自分たちの思いをレポートにし世界中へ発信している人たちもいた。しかし、残念なことにマスコミが報じていたように観光旅行のオプションにすぎなかった人もいたことは否定できない。

私たちは、現地での体験を「良かった」と言う言葉で飾るのではなく、「まだまだ世界との距離は大きい」と反省として受け止めるべきではないだろうか。現実を直視し、男女でつくる社会を目指して男性をも巻き込んだ取組みが必要であると強く感じた。

（池内　知子）

戦後50年という節目の年にアジアではじめて、世界女性会議が北京で開催された。その会議に先だって開かれたＮＧＯフォーラムに京都の女性団体の方々と一緒に参加できたことは私にとって意義深いことであった。

慰安婦問題にも関心が薄く、アジアの内戦によって多くの女性が苦しい生活を余儀なくされてきたことにも、現在もなお、尾を引いている現状に目を向けていることなどの反省の機会にもなった。

今、私は現状認識をしっかりしながら、何をすべきか考えている。それにはお互いをよく知り、理解することから始めねばならない。

幸い京都には多くの国々からの女性が住んでいる。これらの女性たちと交流するとともにそれらの国々へも足を運んでその現状を直視したい。個々の女性の対話の中からお互いに学び合えるものは多いと信じるから。海外研修ＫＹＯのあけぼの会のみなさんと「アジアの女性のあけぼの」へ歩を進められたらと思う。

（生田美和子）



特集

第４回世界女性会議 … NGOフォーラムに参加して …

開会式の興奮もさめぬ31日、柳やポプラ並木の美しい懐柔県のフォーラム会場へ。そこには高齢化社会・政治参画・生殖や性暴力・環境・就労・被差別少数民族の問題など課題を抱えて集まった女性の熱気が溢れていた。

私はテント村で出合ったネパールの女性に関心を持った。貧困を克服した堂々たる彼女達の顔を瞼に浮かべながら資料を読み耽った。そこには女性が教育を受け自立せねば家庭も社会も豊かにならない「女が変われば社会が変わる」を実現した姿があった。環境・宗教・習慣等の制約をうけながら命を育み暮らしを守る女の誠実な強さが変革させたのだろう。帰国後、資料より活動参加や事務局紹介等ＮＧＯ国際ネットワークを確認した。そして世界の「愚大家幸福」には、ユネスコ活動や日本の国際協力隊等の民間協力の重要なこと世界の女性と連帯して地位向上を目指す意義の私の認識が深まったと思う。これからは子供達に自然界の営みを理解し、個々の命を大切にする優しさと厳しさを教えてゆこうと思っている。

（山下　弥生）

“エンパワーメント” —— 中国に渡って初めて耳にした言葉 ——

思いがけず、府から派遣される代表団の１人に加えていただき、第４回世界女性会議（ＮＧＯの部）に参加した。

北京に着くや否や、テレビから「平等・開発・平和」の文字が何度も放映され、女性会議一色という感じだった。189ヶ国、35,000人の女性が参加する会議を受け止める中国が、「婦女連合会」の指揮系統の下に一切の運営を行ったと聴く。

出発を前にした学習で、あれこれと不安な材料が頭をよぎり、構えて入国したが、開会の幕明けから感動の連続で、そんな不安は吹き飛んでしまった。

先ず、人・人・人の渦、大会運営の女性代表の舌を巻く挨拶、バイタリティー、繰り広げられるセレモニーのすごさ。中でも可愛い子供達（1,000人）の演技する整ったリズムと規律ある表現に、思わずこみ上げる胸の熱さを覚えた。ここまでに仕込んだ教育の力と、すべてを女性の手造りで築いたという力。これが“エンパワーメント”（継続の力）でなくて何だろう。

２日目の懐柔県分科会もすごかった。言葉は全くわからないが、女性の爆発するエネルギーを存分に味わった。

全世界の半分は女性である。このエネルギーを正しく伸びる力に変えて前進したい。まさに「エンパワーメント」で……。

（渡辺　　有）

“千里の道も一歩から”　この度、第４回世界女性会議に参加の機会を得、資料収集班の役目柄、各国の資料に目を通す事が出来た。世界中の資料に書かれた共通項目は、①女性問題は人権問題である、②女性差別がなくなって、初めて人権尊重の時代といえる、③男性との対決ではなく、パートナーシップを重視する、という主張であった。10年前のナイロビ会議を大きく上回った規模で開催され、すべてに盛り上がりを見せた会議、ワークショップであった。５ヵ月を経た今も尚、見聞きした頭書の項目が脳裏を離れず、私の生活上の大きな指針となっている。

最近健康を保つ為に歩こう会に参加する機会が増えた。将軍塚の頂きに立って、遥か西方を見やる時、北京の空のもと、ガートランドモンゲラ事務局長が「千里の道も一歩から」と訴えた言葉を想い出し、京都の街なみ煙る眼下の広がりの中、地道な女性会活動を通しての自分自身の生き方を、これからもしっかり見つめて行きたいと考える。

みんなで幸せになる為に、世界中の女性が手をつなごう。

（武田　公子）